

第2回 都心部における地下歩行ネットワーク検討委員会 議事概要

1 日 時：令和元年12月10日(木)14:00～16:00

2 場 所：札幌市役所本庁舎12階5号会議室

3 出席者：大沢 昌玄 委員長
森 朋子 副委員長
藤井 将博 委員
齋藤 友子 委員
内川 亜紀 委員
服部 彰治 委員
新保 忠幸 委員
高橋 正志 委員
阿部 正隆 委員

(事務局)	札幌市まちづくり政策局交通計画課交通施設担当課長	星野 樹哉
	〃	交通施設係長 賀澤 友晴
	〃	担当職員 坂下 公一

4 議 事

(1) 開 会

(2) 議 事

- ア 前回意見等について
- イ 方針の骨子について
- ウ ガイドラインの項目について
- エ 接続パターン等の整理について

(3) 閉 会

5 意見要旨

- ・ネットワークの軸を形成することと、後背ビルを繋げてネットワークを形成することは分けて整理した方が良い。
- ・方針に盛り込むべき内容と、ガイドラインに盛り込むべき内容の再整理が必要。
- ・次回までには、個別に委員の意見を聴取するなどして、方針案を充実させていくことが必要。

6 対応等について

- ・次回検討委員会までに各委員に個別に意見を聴取した上で、本日の意見も踏まえ方針案としてまとめる。

7 その他意見

- ・歩行者が地上から地下に単純に転換するというより、ネットワークができることで誘発される効果なども考慮して検討した方が良い。
- ・ネットワークが繋がるまでの扱い方や担保性、整備後使われ続けるための担保性、維持管理等の時限的に異なる段階における整理が必要。
- ・方針については、PDCA サイクルによって時間軸で見直すなどが必要。
- ・隣のビルや後背ビルと接続を準備することに対するインセンティブのメニューが必要。
- ・札幌は狭小ビルが多く、一体で再開発を行うなどしないとネットワークを整備することは難しい。周辺ビルを含めた再開発ができるような調整が必要。
- ・地下接続を想定して先行して整備したものの、ネットワークとして繋がらないままのビルに対する手立ても必要。
- ・ガイドラインの議論については、ハードの視点だけでなく、使い手側の目線が入っているといい。
- ・ガイドラインを考える上では、公共（行政）や地域が果たす役割・関わり方などを整理することが重要。
- ・通行者数の大きい通り等の接続しやすいところだけ進んで、他は進んでいかないこともあり得る。中心地の一部の地下が接続して、札幌全体のまちづくりとしての話が取り残されてしまうのではないか。
- ・骨格としてネットワークを形成したいところと、民間側にメリットがあるから繋げるという部分は、方針やガイドラインの中でも分けて整理した方がいい。

以上